平成２３年度

中　間　評　価　結　果

目　　次

1　中間評価結果一覧　7

2　研究課題別中間評価結果　9

番　号	研究テーマ名	ページ
23-中間-001	濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	10

中間評価結果一覧

【平成23年度】

課題番号	研究テーマ名	センター名	評価結果(評価点5点満点)				
			WG名	県民ニーズ	技術的達成度	事業効果	総合判定
23-中間-001	濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	畜産技術センター	畜産	4.0 (4.2)	3.0 (4.0)	3.7 (3.9)	継続 【意見付】

(評価点の内容)

○県民ニーズ
- 5点　県民ニーズは大幅に増大
- 4点　県民ニーズは増大
- 3点　県民ニーズは変化していない
- 2点　県民ニーズは減少
- 1点　県民ニーズは大幅に減少，あるいは判定不能

○技術的達成度
- 5点　目標を大幅に上回って達成
- 4点　目標を上回って達成
- 3点　概ね，目標を達成
- 2点　目標を下回り，達成できなかった
- 1点　目標をほとんど達成できなかった，あるいは判定不能

○事業効果
- 5点　当初見込みよりも事業効果は大幅に上回っている
- 4点　当初見込みよりも事業効果は上回っている
- 3点　概ね，当初見込み通り
- 2点　当初見込みよりも事業効果は下回っている
- 1点　当初見込みよりも事業効果は大幅に下回っている，あるいは判定不能

(注) 評価結果の括弧内の数値は，事前評価時の評価点を示す。

2　研究課題別中間評価結果

番 号	23-中間−001
WG名	畜産

中 間 評 価 結 果

1　研究テーマ名・機関名

濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	畜産技術センター

2　評点集計結果

大項目	中項目	評点（評価者名）				
		A	B	C		平均値
Ⅰ 県民ニーズ	1　ニーズの質的・量的変化	4	4	4		4.0
Ⅱ 技術的達成可能性	2　開発技術（提案）の価値の変化	3	3	4		3.3
	3　研究課題の達成状況	3	3	3		3.0
	4　研究計画の実施状況	3	2	3		2.7
Ⅲ 事業効果	5　事業効果における質的・量的変化	4	3	4		3.7

2　評価点算出結果

大項目	評価点（5点満点）	中項目	大項目内ウエイト	評価点（5点満点）
Ⅰ 県民ニーズ	4.0	1　ニーズの質的・量的変化	1	4.0
Ⅱ 技術的達成可能性	3.0	2　開発技術（提案）の価値の変化	1/3	3.3
		3　研究課題の達成状況	1/3	3.0
		4　研究計画の実施状況	1/3	2.7
Ⅲ 事業効果	3.7	5　事業効果における質的・量的変化	1	3.7
総　合	3.6			

番号	23-中間−001

評価委員会意見

総合評価	○飼料イネ新品種の栽培方法，栄養価評価，乳・肉牛への給与効果などに関して，当初の計画通りほぼ順調に進展している。今後の飼料イネ多給試験や高泌乳牛に対する給与試験の成果に期待する。課題の目的に対応するよう，濃厚飼料の節約効果など，コスト面での検証も必要である。（A） ○全体を通して，概ね良好に研究が進められていると考える。但し，今後，計画延期や実施期間の延長・変更などが発生しないよう進める必要がある。（B） ○濃厚飼料価格の高騰に対する対策として研究開発しているWCSの内容は，非常に効果が高く将来性がある。しかし，飼料費に対する試算に無理があり，実際の価格とは，乖離があるように思われる。（C）
県民ニーズ	○計画当初に比べ濃厚飼料価格は低下したが，依然として価格は不安定な状況にあり，本研究課題の意義は大きい。（A） ○畜産農家戸数及び酪農農家戸数の減少と共に肉用牛，乳牛の飼養頭数も減少している。しかし，粗飼料生産法人数は３年間で約２倍の204法人へと増加している。このことは，厳しい経済情勢の中で，コスト低減などによって，経営の強化を図ろうとする畜産農家及び酪農農家の対応の一環であると思われる。従って，県民ニーズについては増加傾向にあると考える。（B） ○自給飼料の割合を増やしていくことは，今後の課題になると思われる。（C）
技術的達成可能性	○新品種飼料イネの有効性が，泌乳中後期牛や肉牛の普通給与体系で明らかにされており，泌乳前期牛や多給体系での成果が期待される。飼料イネ自体の栄養価が向上していることは理解できるが，濃厚飼料の節約効果を数値で表示したり，乳生産増加効果が何と比較して得られているのか（例えば，従来品種との比較なのか，それとも給与水準間の比較なのかなど）を明確に提示する必要があると思われる。（A） ○目標達成上の技術的課題の新技術の開発・確立及び低カロテン化試験の拡充については，概ね評価できると考える。しかしながら，計画の延期や実施期間の延長・変更などが５項目あり，当初計画期間内に研究が完了できるか懸念が残る。研究内容が希薄なものになることは，避けなければならない。（B） ○技術的には問題ない。（C）
事業効果	○普及活動によって，新品種飼料イネの栽培面積が増加している点は評価できる。（A） ○中間報告書の内容であれば，事業効果は期待できると考える。（B） ○飼料費に対する試算において，実際の価格と開きがあると思われる。生産者と意見交換を行いながら研究及び技術移転を進める必要がある。（C）